

報 告

夢がかなった 国立国会図書館関西館見学ツアー

里川 得美子

国立国会図書館関西館ができると聞いたのは2年ほど前、近畿病院図書室協議会主催の研修会でのことでした。そして2002年10月、関西館開館。図書室の仕事に携わっている私にとって、とてもうれしい情報でした。開館間もなく利用登録申請をし、ぜひ行ってみたいという思いは強くなるばかりでした。その願いが通じたのか、去る3月4日、東海地区医学図書館協議会主催の国立国会図書館関西館見学ツアーに参加することができました。夢が実現したその感動を、皆様にお伝えしたいと思います。

建物は地上4階地下4階、全面ガラス張り、全体の3/5以上を占める書庫を地下に配してあるため、見た目以上に収蔵能力があり、大変驚きました。周囲には緑も多く配され、自然に調和していました。正面側には幅230mの修景滝と呼ばれる滝が流れており、地下の屋根にあたる部分は鋸屋根になっていて、北向きの面は芝、南向きの面は光を乱反射するガラスで作られ、正面からは緑一色に見える工夫がされています。自然の光を最大限に取込み、そこで働く人も利用する人も自然の恩恵を感じるようになっていて、心地よい気持ちにさせてくれます。

入口から長い階段を下り入退館ゲートへ向かう途中、館長の方が「この階段を下りる時は、一段一段本に近づいているのだという喜びをかみしめて下さい。」と言われた言葉がとても印象的でした。

次に、館内利用カードを各自がカード発行機で作成し、総合閲覧室とアジア情報室から構成されている閲覧室へと入ります。閲覧室にある



端末でNDL-OPACを検索し、そのまま資料の閲覧をオンラインで申し込むことができます。閉架資料が地下2階から4階の書庫にあります。地下4階では、資料の出納作業を機械化した自動書庫が動いており、なかなか見ることができない作業風景を見せてもらうことができ、とても感動しました。地下の資料は資料搬送ステーションで専用トレイに入れられ、自走式の水平搬送台車で閲覧室まで運ばれます。姿は見えないのですが、地下の廊下の天井裏をこの台車の音が響き走る様子は、外観とはまた違った雰囲気を感じさせてくれました。

関西館は、遠隔利用サービスに適した資料、調査研究に必要な資料、アジア言語資料、アジア関係資料を所蔵しています。時間があれば資料の検索・申込も試してみたかったのですが、残念なことに端末を触るのがやっとなという状況でしたので、今度はぜひ、電子図書館サービスを利用してみたいと思います。

見学したことにより国立国会図書館を身近な存在に感じ、図書室業務に携わるものとして、一歩前進したような喜びがわいてきました。皆様も一度参観され、この新しい感動を体験されてはいかがでしょうか。